

米国の大学における入学審査職員に求められる能力とその開発

Competencies required for admissions officers and their development in American universities

大場淳(広島大学)

大学にとって、どのような学生を入学させるかということは、その大学の質に関わる重大な問題である¹。したがって、学生の入学審査(admissions)は大学全体に関わる問題であり、その審査基準は大学の教育目標と深く結びつくべきものであることは言うまでもない。また、入学審査は「社会過程(social process)」とも言われ(Oliver, 1979: 26)、社会の動きを反映し、社会全体と密接に関係するものである。

他方、高等教育に関する財政が緊縮し、少子化等によって学生確保競争が激しくなるといった環境の下で、入学希望者の質や適性に配慮しつつ、学生を獲得し収入を得ることも入試を始めとする入学審査や学生募集に関わる重要な使命である。

米国の多くの大学においては、学生募集活動を含む入学審査業務が専門化しており(Millett, 1962: 214)、通常、学部(undergraduate)段階の入学者選抜は、大学が定める選抜方針・基準に基づいて、入学審査部(admissions office / office of admissions)が行い、必要に応じて全学の入学審査委員会等へ入学決定を諮ることとされている。また、学生募集活動も、教員との連携・協力を図りつつ、専門職員が中心となって行っている²。

入学審査業務に従事する専門職員である Admissions officer (入学審査職員)は、時には大学の権力組織の中核(the very center of the campus authority structure)に位置するとも言われ(Perry, 1970: 102)、大学において非常に大きな役割と責任を担っている。その職務は、入学審査に直接関わる業務だけでなく、教員組織やその他の大学管理運営組織との連携や調整を必要とし、それらに従事する職員には幅広い知識や経験等が要求される。

本稿は、この入学審査職員に焦点を当て、その歴史的発展や現在の大学における役割を踏まえつつ、当該職務に求められる能力³とその開発について考察することを目的とする。

I 米国の大学の入学審査業務

入学審査及びそれに密接に関係する学籍管理に関する業務は、学生サービス(student services)と教育サービス(educational services)の双方の性格を有すると言われる(Millett, 1962: 192)⁴。このため、入学審査部は、基本的な入学者選抜方針を定める教員組織と大学行政(学生サービスを含む)を担う管理運営組織の二つの組織に対して報告義務を負っており(Perry, 1970: 101-102)、その業務は多様である。但し、入学審査業務が有する二つの側面のうち、いずれの側面に重点を置くかは各大学の経営方針等に依っており、それによって大学組織において置かれる位置や報告の対象も異なっている⁵。

入学審査部は、概ね、次のような業務を行うところとされる(Huddleston, 2000: 67-68)。

- ◆ 全体的な学生像を構築する。
- ◆ 潜在的な志願者を特定し、接触を図る。

- ◆ 有望な学生に志願させる。
- ◆ 大学に対する関心を維持するため、志願者と継続的な接触を図る。
- ◆ 出願の過程を通じて志願者の関心を維持するため、各種計画や活動の調整を行う。
- ◆ 入学が認められた者に対して、入学を促すための諸活動を行う。
- ◆ 優れた顧客サービスを提供する。
- ◆ 地域の様々な有力者からの支持を発展させる。

このような業務に従事する入学審査職員は、事業管理者 (business manager) であるとともに、教育者 (educator) としての資質が求められると言われる (同 : 68)。すなわち、学長への助言を行い、卒業生やその他の大学外の関係者に対する代弁者であり、他方で、学生への相談活動も当該職員にとって重要な業務であるとされているのである⁶。

II 米国大学の入学審査職員

1. 入学審査職員の歴史

初期の米国の大学では、学生募集等は学長及び教員の職務であった (Coomes, 2000 : 6)。その後、学籍管理を担当する教務系の職員が次第にそれを担うようになり、20世紀に入って、そこから入学審査職員 (admissions officer) が派生したと言われている。本節では、教務系管理職員の出現から入学審査職員の登場までを、簡潔に記することとする。

(1) 学籍管理職員の確立

学籍管理を担当する教務系管理職員の起源は、中世大学の Major-beadle (bedel)⁷ と言われる。儀典関係を中心とした当該職員の職務領域は次第に拡大し、英国の大学では15世紀から Registrar (以下、「教務部長」と訳する) の呼称が使われ始めた (Kastner, 1962 : 185)。オックスフォード大学では、遅くとも1446年までには最初の教務部長が置かれ、その職務は大学規程に形式を与え永続化を図ること、書簡の起草、公文書の写しの作成、卒業生の名簿作成などであった (Mallet, 1924 : 327)。ケンブリッジ大学では、最初の教務部長は1506年に置かれ式典進行などの職務を行っていたが、1544年までには入学志願者の全てが教務部長室に出頭することとされ、教務部長がその面接に当たるようになった (Perry, 1970 : 100 / Quann, 1979 : 5)⁸。

他方、初期の米国の大学においては、英国の教務部長が担った職務は、通常教員或いは書記官 (clerk) やその補佐職員が担当してきた⁹。1636年に創設されたハーバード大学では長く教務部長職は置かれず、管理運営組織の中にそれが位置付けられるのは、創設から2世紀ほど経た19世紀前半のことである (Perry, 1970 : 100)。その間、ハーバード大学では、当該業務に従事した教員に対して手当が支払われたことが記録されている (Quann, 1979 : 5)。

19世紀後半からは、教員外職員として教務部長が多くの大学で置かれ、次第に専門化が進んでいった。1910年には専門職団体として、米国大学教務部長協会 (American Association of Collegiate Registrars : AACR) が設立された。教務部長職は、第一次世界大戦前までには大学管理職員 (administrative officer) としての地位が確立したと言われる

(Kastner, 1962 : 185-186) ¹⁰。その背景には、当時選択科目制度(elective system)が普及し、その管理に専門職が必要となったことなどが指摘されている (Perry, 1970 : 101)。

(2) 高等教育の拡大と入学審査部の設置

当時 (19 世紀後半から 20 世紀前半)、米国の大学では、高等教育の拡大とともに、様々な職種の管理職員が置かれるようになっていた。それは、一つには増える学生の受入や新たなサービスの需要へ対処すること、また、大学管理業務から研究志向の教員を解放することを目的としていた (Rudolph, 1962 : 434)。

これらの管理職員の中には、事務長(secretary of the faculty)、前述の教務部長、副学長(vice president)、学生部長(dean)、女子学生部長(dean of women)、事業部長(chief business officer)等とともに、Dean of admissions¹¹と呼ばれる入学審査部長 (入学審査担当副学長) が含まれる (Rudolph, 1962 : 434-435)。入学審査部(admissions office)設置の背景としては、学生獲得競争が激しくなり、入学審査手続が多様化且つ複雑化して、教務部(registrar's office)とは別に入学審査のための組織を作ることが適当と考えられたためである (Kastner, 1962 : 186)。なお、入学審査以外に教務部から派生した業務には、相談活動(counseling)、就職支援(placement)、学習支援(academic advising)などが含まれる (Quann, 1979 : 8)。

入学審査部は、1915 年のコロンビア大学を皮切りに米国の大学に置かれ始め、1930 年代には多くの大学で見られるようになった。1937 年には、入学相談員の専門職団体である大学入学相談員協会(Association of College Admissions Counselors : ACAC)が設立された。ACAC は、全国大学入学相談員協会(National Association of College Admissions Counselors : NACAC)の名称を経て更に活動範囲を広げ、現在は全国大学入学相談活動協会(National Association for College Admission Counseling : NACAC)となり、約 8 千人の会員を抱える専門職団体に発展してきている。

戦後は、復員軍人を大学に受け入れたことなどから、入学審査部は更に拡大・発展した。1949 年には、前述の米国大学教務部長協会(AACR)が、名称に「入学審査部長」を加え、米国大学教務部長・入学審査部長協会(American Association of Collegiate Registrars and Admissions Officers : AACRAO)となった。その後、1960 年代の高等教育拡大等を経て、入学審査部は更に拡大してきている。

最初の入学審査部の主たる職務内容は、大学への適性を有する志願者を確保することであり、そのために志願者の資質を測るための客観的手法を用いるようになったとされる (Coomes, 2000 : 7)。但し、入学審査部が全ての大学に置かれた訳ではなく、引き続き教務部が所管したり、あるいは、組織名を変更して「教務・入学審査部」等の名称を付けた大学も少なくなかった。

(3) 大学政策に基づく入学者管理(enrollment management)へ

独立した入学審査組織については、その必要性が指摘される一方で、密接に関係する学籍管理等の教務と分離することの弊害も指摘されていた (Kastner, 1962)。入学審査業務と教務の関連が密であることについては、両領域に従事する職員の専門職団体である米国大学教務部長・入学審査部長協会(AACRAO)が、名称変更を行ったものの、今でも一つの

団体として維持されていることに鑑みても明かであろう。

1960年代の高等教育の大規模な拡大、1970年代中頃から予想された高等学校卒業生の減少、連邦・州政府や大学独自の奨学金拡大、学生の大学選択や在籍維持(student persistence)等に関する研究の発達は、大学の入学審査業務の在り方を見直す契機となった。その結果、1970年代初頭から、大学において、入学審査や学資援助、学籍管理等を統合的に行う入学者管理(enrollment management)が重要な機能として位置付けられるようになった。ボストン・カレッジ、ブラッドリー大学、カリフォルニア州立大学ロング・ビーチ校、ノースウェスタン大学等が、最初に総合的な入学者管理を行った大学と考えられている(Coomes, 2000 : 10-12)。

Huddleston (2000) は、大学の入学者管理業務を次の七つに区分して解説している。

- 1) 組織研究と企画(institutional research and planning)
- 2) マーケティング(marketing)
- 3) 入学審査(admissions)
- 4) 学籍管理(registrar)
- 5) 学資援助(financial aid)
- 6) 学生進路指導(student orientation)
- 7) 在籍維持と助言(retention and advising)

上に見る通り、学籍管理等とともに入学審査はその一環として位置付けられ、今日、それに従事する者は、入学者管理という幅広い文脈の中で職務を遂行している。

2. 入学審査職員のキャリア

入学審査業務に係るキャリアを始めるには、入学審査に関する相談活動に従事する者(admissions counselor)又は各地の高校を訪問して勧誘を行う者の二つの選択肢があると言われる(Jacobson, 2002)。そして、この職務領域でキャリアを積み重ねる場合は、部長補佐(assistant dean)、部次長(associate dean)を経て、いずれかの大学の入学審査部長(dean of admissions)となっていくのが通例である。入学審査部長に就いた者は、平均して一つの大学で3～8年務め、その後、より大きな或いは威信のある大学の部長職に就任し、中には、入学審査と学資援助の双方を担当する入学者管理担当副学長に就任する者もある。

必要とされる学位に関しては、最初に採用される段階では、通例学士の学位が求められるが、必ずしも領域は問われない。昇進していく間に高等教育等に関する修士を取得することが多く、また、カウンセラーとなるには教育カウンセリングの修士学位が必要とされる(Perry, 1970 : 106)。更に上級管理職員となるためには、博士号取得が奨励されている。博士号の取得は、単に関係領域に関する深い知識の獲得を意味するだけでなく、入学者選抜方針策定等に際して教員とやりとりする機会が多い上級管理職員にとって、教員と交渉を有利に進めることに寄与するものと受け止められている(Perry, 1970 : 101)。

また、入学審査業務は、必ずしも他の領域には存在しないような専門性が明確に存在する職務領域ではなく、入学審査以外の入学者管理業務を始めとした他の職務領域との間に、少なからぬ職員の異動が認められる(Jacobson, 2002)。

III 入学審査職員に求められる能力とその開発

1. 入学審査職員に求められる能力

多様な入学審査業務を反映して、入学審査職員に求められる能力は非常に多様である。前述の通り、入学審査業務は、学生サービス(student services)と教育サービス(educational services)の双方の性格を有する。入学審査部は、直接あるいは間接に、基本的な入学選抜方針を定める教員組織と大学行政を担う管理運営組織の二つの組織に対して報告義務を負うことから、当該両サービスに必要とされる能力、或いは教学と事務の双方に求められる能力が必要とされる。

一般的には、求められる知識として、職員が所属する大学の歴史や教育プログラム等、中等教育や外国の教育、全国共通テスト、奨学金制度、若年者の人口動態等に関する知識、あるいは学生の教育や開発に関する基本的な理論、地域の様々な状況等が挙げられる。また、管理職であればマネジメントに関する知識・技術も必要であることは言うまでもない。必要な資質や技能としては、高等学校の教員やカウンセラーと密接に連携を図ったり、あるいは有望な入学志望者やその保護者との面接を行いつつ、高校生等の進学を促すことができること、自校の教育目的や教育手法等を説明し、そして学生の興味や関心が自校の教育内容と一致することを納得させること、膨大な入学志願書や添付資料に目を通して迅速且つ適切に審査すること、学内の教員や他の管理部門との交渉や調整ができることなどが要求されよう。

例えば、Perry (1970 : 104) は、入学相談活動に際して必要とされる知識として、次の10項目を指摘している¹²。

- 1) 大学の簡潔な歴史
- 2) 大学の教育目的とそれの学生にとっての意義
- 3) 大学の教育プログラムの認証状況
- 4) 大学の教育プログラムへの入学許可に必要な事項
- 5) 学生の構成
- 6) 就学に際して必要とされる費用
- 7) 利用可能な奨学金
- 8) 大学の年中の授業計画や行事
- 9) 学生寮の規則
- 10) 大学の学生活動プログラム

Kastner (1962 : 201) は、学籍管理又は入学審査の担当者として理想的な新規採用者は、「良質で健全な教育的背景、知性、管理能力、統合力、リーダーシップ、判断力、動機を持つ者」と記しているが、一つの領域に特化した知識や技能を有する者ではなく、どの職場にも通用する優れた資質とともに幅広い知識や経験を有する者が重視されると考えられよう。Richard R. Perry が1964年に著した *The Admissions Officer* では、入学審査業務に必要なとされる適性(competence)は、一般的な能力を多分に含むものであることが示唆されている (Perry, 1970 : 100)。Perry (1970 : 107) は、入学審査職員に必要な適性として、一般に重要と考えられている順に以下を指摘している。

1. 大学の支援者を容易に作ることができること。
2. 他の教育指導者（他の学生部長や入学審査部長を含む）から尊敬を得ること。
3. 大学にとって高い教育水準を維持するに当たってのリーダーシップ。
4. 学生の教育の質を継続的に向上すること。
5. 長時間の勤務に抵抗がないこと。
6. 学生及び教員に対して品性(moral character)において影響があること。
7. 大学や地域における一般的な知的リーダーシップ。
8. 講演者としての能力。
9. 入学者が高い率で卒業すること。
10. 好意的な評判を得る能力。
11. 均衡のとれた予算を維持する能力。
12. 大学の入学者を継続的に増やすこと。

また、入学審査部の一般職員(assistant)に求められる資質や経験として、Hauser 及び Lazarsfest の調査（*The Admissions Officer, Bureau of Applied Social Research, Columbia University Press, 1964*）は、特に、親しみやすいこと、落ち着いていること、教育的信条が重視されていることを報告している。以下に、重視されている順に、項目とそれを重視する者の割合を示す。

1. 親しみやすいこと(friendliness)	83 %
2. 落ち着いていること(poise)	77 %
3. 教育的信条(educational belief)	70 %
4. 高等学校に精通していること(familiarity with high school)	43 %
5. ガイダンスの経験(experience in guidance)	37 %
6. 教育の経験(teaching experience)	17 %
7. 心理学の訓練(training in psychology)	14 %
8. 統計の訓練(statistical training)	13 %
9. 卒業生であること(alumnus)	8 %

2. 専門性の形成

入学審査職員としての専門性は、必ずしも新規採用時に備わっていることは前提とされず、主として職務経験と職場内外での研修等を通じて形成される。Kastner (1962 : 201-203) は、教務部長や入学審査部長を目指すための基礎的な知識として、「広範で全般的な一般教養と一つの学問領域における専門知識」を指摘し、アメリカ大学教務部長・入学審査部長協会(AACRAO)のプログラムを引用しつつ、学習すべき領域として次の 15 領域を挙げている。但し、14 と 15 は高度な専門コースと位置付けられている。

- 1) 教育史(history of education)（外国の教育制度を含む）
- 2) 高等教育(higher education)（その哲学、組織、管理運営）
- 3) カリキュラム開発(curriculum development)（中等教育のカリキュラムを含む）

- 4) 中等教育(secondary education)
- 5) 人事管理(personnel management) (その歴史的発達と目的、人的資源の活用等)
- 6) 事務管理(office management) (企画、配置、組織、物品・機材管理、予算に関する手法等)
- 7) 教育測定(educational measurement) (教育効果の測定等)
- 8) 統計(statistics) (教育に関する各種統計)
- 9) 教育管理(educational administration) (法令や財務に重点を置いた組織や管理運営に関する知識)
- 10) 広報(public relations)
- 11) 相談活動の手順(counseling procedures)
- 12) 学生担当職員の業務(student personnel work)
- 13) 通信技術(communications techniques)
- 14) 標準的な大学における入学審査・学籍管理機能の管理(the administration of the admission-registrar functions in standard colleges and universities)
- 15) 指導下におけるトレーニング経験(a supervised training experience) (教務部や入学審査部におけるインターシップ)

ここに示されている学習領域は 40 年以上前のものであるが、相当に現在に通じるものが含まれると考えられる。以下は、2004 年 8 月現在、AACRAO が会員向けに出版を行っている領域であるが（案内書や報告書を除く）、管理運営等に関する研究の発達や現代的課題等を反映している点（例えば、戦略的入学者管理が取り上げられている点や人事管理が人的資源管理に取って代わられている点）があるものの、その基本は大きくは変わっていないことが認められよう。

- 1) 入学審査(admissions)
- 2) 教育管理(educational administration)
- 3) 不正な学修資格証明書(fraudulent academic credentials)
- 4) 成績評価(grading)
- 5) 人的資源管理(human resource management)
- 6) 国際教育(international education)
- 7) 法務(legal)
- 8) 学籍及び登録(records and registration)
- 9) 募集と在籍維持(recruitment and retention)
- 10) 中等教育(secondary education)
- 11) 戦略的入学者管理(strategic enrollment management)
- 12) 技術(technology)
- 13) 単位互換(credit transfer)

3. 入学審査職員の開発～AACRAO の活動

- (1) アメリカ大学教務部門・入学審査担当者協会(AACRAO)

アメリカ大学教務部門・入学審査担当者協会(American Association of Collegiate Registrars and Admissions Officers : AACRAO)は、教務及び入学審査業務に従事する者を中心とした専門職団体である。前述の通り、AACRAOは1910年に設立され、設立時の名称は米国大学教務部長協会(American Association of Collegiate Registrars : AACR)であったが、1949年に名称に「入学審査部長」を加えて現在の名称となった。1964年には、更なる教務関係の職務領域拡大を反映して、入学審査、登録、学籍、奨学金、データ管理・調査、組織研究、留学生入学審査、就職支援を対象とするよう組織規約の改定が行われた。

2004年5月現在、約2,300機関に所属する9,000余人の会員を有し、加盟している機関の所属国はアメリカだけでなく、世界35箇国に及んでいる。また、AACRAOは全国的組織であるが、地域における組織をつくることを奨励し支援している。概ね州単位で地域組織が設立されており、より地域に密着した活動を展開している。

(2) AACRAOの職能開発活動

大学の職員の職能開発のうち、一般的な知識・技能等に関する開発活動は、自己啓発等を除けば、職場内訓練(OJT)や大学の内外における集合研修等によって、主として大学が中心となって行っている¹³。各専門職の専門的な職能開発に中心的な役割を果たすのは、専門職団体である。

AACRAOは、前述のように様々な出版物を刊行しているほか、職能開発活動(professional development)として、以下のような活動を行っている¹⁴。

- ◆ 各種委員会(AACRAO Committees)
- ◆ 調査結果(AACRAO Survey Results) (例えば、オンライン登録に関する調査)
- ◆ 成績証明書と学籍：現在の実践に関する調査(Academic Transcripts and Records : Survey of Current Practices)
- ◆ 報償・助成金(awards/grants)
- ◆ 執筆活動(be an AACRAO author)
- ◆ FERPA¹⁵オンライン案内(FERPA Online Guide)
- ◆ 就職案内(Jobs Online)
- ◆ 経営の力学：オンライン職能開発ワークショップ(Management Dynamics : An Online Professional Development Workshop)
- ◆ 会議・ワークショップ(Meetings/Workshops)
- ◆ アウトソーシング専門調査会(Outsourcing Task Force)
- ◆ オンライン教務職員自己点検(Registrar's Self-Audit Online)
- ◆ 専門的な実践及び基準に関する資料(Resources on Professional Practices and Standards)
- ◆ SPEEDE¹⁶委員会(SPEEDE Committee)
- ◆ 留学生入学審査及び外国の教育の評価のための研修(Training Opportunities for International Admissions / Evaluation of Foreign Education)
- ◆ 単位互換の実践オンライン(Transfer Credit Practices Online)
- ◆ 大学間移動及び州における中等教育との接続に関するウェブサイト(Transfer and

State Articulation Websites)

- ◆ 有益なメールによる情報配信元(useful listservs)

このうち、会議・ワークショップから、2004年に開催された「AACRAO 入学審査講座 (AACRAO Admission Institute)」を取り上げる。「明日の入学審査専門職のための訓練」と題されたこの講座は1日半のプログラムで、入学相談員向けのコース(Track 1)と入学審査管理職員向けのコース(Track 2)の二つのコースが設けられ、7月から8月にかけて、全国6箇所(フロリダ、コロラド、カリフォルニア、メリーランド、インディアナ、ミズーリ)で開催された。それぞれのコースの内容は、表1の通りである。

表1 AACRAO 入学審査講座 (2004年)

	入学相談員向け(Track 1)	入学審査管理職員向け(Track 2)
第1時限	入学審査専門職員の役割	募集とマーケティング
第2時限	発表技能の微調整	業務・処理(operations/processing)
第3時限	倫理についての考察	倫理についての考察
第4時限	募集とマーケティング	技術(technology)
第5時限	事例研究	事例研究
第6時限	事例研究の発表	事例研究の発表
第7時限	進路についてのルール(rules of the road)	専門性(professionalism)

IV 結語

以上、米国の大学における入学審査職員について、その発達の歴史や職務内容、能力開発等について見てきたが、当該職能の成立は、大学職員の専門分化の典型例の一つと捉えることができ、また、その能力の開発はその専門性の追求と表裏一体に進められてきたことが理解されよう。日本においては、近年、大学職員の専門職化の必要性が指摘され、そのための大学院も設置されてきている。終身雇用や人材の内部登用、ジェネラリスト重用といった伝統的日本の雇用慣行等に鑑みれば、早急に大学職員の専門職化が進むとは考え難いものの、専門的知識が中心的資源と言われる知識社会においては、いずれその流れは大学職員にも及ぶことであろう。

入学審査に関して日米を比較してみた場合、米国流の入学審査の在り方は、通常学部単位で学生募集が行われ、原則として学力審査によって平等に行われる日本の入試制度とは大きく異なっている。また、奨学金制度についても、米国では奨学金が個々の大学への進学インセンティブになっているのに対して、日本の奨学金にはそのような性格が稀薄であり、雇用慣行や入学審査における裁量の低さと相俟って、これまで入学審査担当者の専門職化を進めるには至らなかった。

しかしながら、今日、我が国の大学入試においても、いわゆるAO入試の普及等による入試の多様化が進み、また、米国における入学者管理に見られるように、学生募集だけでなく、高等学校との接続や入学後の大学教育と密接に関係付けて業務を遂行することが求められるようになっている。それらを円滑に進めるためには、より高度な業務遂行能力を有する職員が不可欠であり、この職務領域における職員の専門職化は避け難いのではないだろうか。実際、多くの大学で大学全体の入学審査を取り扱う入学センター等が整備され

てきており、そこに従事する職員には、次第に高い業務遂行能力が求められるようになってきている。

本稿が、将来の大学職員の在り方に関する考察の一助になれば幸いである。

【参照文献】

- 大場淳編(2004)『諸外国の大学職員《米国・英国編》』高等教育研究叢書79、広島大学高等教育研究開発センター。
- Coomes M. D. (2000) The Historical Roots of Enrollment Management. *New Directions for Student Services* 89, pp 5-18.
- Huddleston T. Jr. (2000) Enrollment Management. In *Understanding the Work and Career Paths of Midlevel Administrators*. Edited by Kramer M. Jossey-Bass, San Francisco. pp 65-73.
- Jacobson J. (2002) Falling into an Admissions Career. *Chronicle of Higher Education* June 12.
- Kastner E. C. (1962) The Registrar and Director of Admissions. In *Administrators in Higher Education : Their Functions and Coordination*. Edited by Burns G. P. Harper & Brothers, New York. pp 185-205.
- Leybold-Taylor K. (1999) *From Bedel to Registrar : The Evolution of a Profession*. 1999 MSACRAO Annual Meeting. (<http://www.iacrao.org/Chronicle/Spring2002/bedel.htm>で入手可能)
- Mallet C. E. (1924) *A History of the University of Oxford*. Methuen & Co. Ltd., London.
- Oliver E. E. (1979) Establishing Admissions Policy. In *Admissions, Academic Record, and Registrar Services*. Edited by Quann J. Jossey-Bass, San Francisco. pp 26-59.
- Perry R. R. (1970) The Office of Admissions - Role of the Administrator. In *Handbook of College and University Administration : Academic*. Edited by Knowles A. S. McGraw-Hill Book Company, New York. pp 99-111 (section 3).
- Quann C. J. (1979) Understanding the Profession. In *Admissions, Academic Records, and Registrar Services*. Edited by Quann C. J. Jossey-Bass Publishers, San Francisco. pp 1-25.
- Rudolph F. (1962) *The American College and University : A History*. Random House, New York.

- 1 Millett (1962 : 214) は、「大学の質は、とりわけ入学する学生の質にかかっている」と指摘する。
- 2 但し、専門化の度合いは大学によって異なっており、小規模の大学を中心として、教員が相当程度入学審査業務に従事する場合も少なくない。特に教員に対して求められるのは、志願書類の審査、高等学校訪問、高校生を対象とした説明会等への出席である (Perry, 1970 : 105)。本稿では、大学において、入学審査の専門職員がいることを前提としている。
- 3 本稿では「能力」は、資質や知識、技能など、職員が職務遂行に当たって有していることが求められるものを幅広く含んで用いている。
- 4 但し、Millett はそのいずれにも分類することができるとしつつも、教育サービスと位置付けることを支持している。
- 5 Perry (1970 : 102) によれば、50% の入学審査部長が直接学長に報告し、次いでプロボスト (学事担当副学長等を含む)、学生業務担当副学長 (学生部長) の順に多かった。Quann, (1979 : 10) は、教務・入学審査の両部は、大別して、規模の大きな四年制大学では教学事務組織に置かれ、小規模な四年制大学及びコミュニティ・カレッジでは学生支援組織の中に置かれる傾向が認められるとしている。
- 6 Rapelye, J. L. "Who Are We Now?" *The Journal of College Admission*, 1999, 163 (Spring-Summer), 22-29. (Huddleston, 2000 : 68)
- 7 試験監督、式典進行、休日告知等の役割を担った職 (Kastner, 1962 : 185)。「儀式担当者」等と訳される。その歴史については、Leybold-Taylor (1999) に詳しい。また、表記法 (綴り) については、Quann (1979 : 2) 参照。
- 8 この後、英国では Registrar の職務が拡大し、大学事務組織を統轄する職務となっている。このため、現在の Registrar に対しては、日本語訳として「事務局長」が充てられることが多い。大場編 (2004) 参照。
- 9 米国で二番目に設立されたエール大学では、例外的に英国同様に Bedel(vice-bedellus)が置かれた (Quann, 1979 : 5-6)。
- 10 代表的な 32 大学の調査では、1880 年時点で 85% の教務部長は教員兼務であったが、1933 年にはその割合は約 2 割まで低下した (Quann, 1979 : 6)。
- 11 "Director of admissions"などと呼称される場合もある。
- 12 以下の項目は、教員が相談活動に従事する際に知るべき事項として列挙されたものであるが、入学相談活動に最低限に必要なとされる知識として受け止めることができよう。
- 13 米国の大学における職員開発活動の概要については、大場編 (2004) 参照。
- 14 2004 年 4 月 15 日に AACRAO のホームページに掲載された情報に基づく。一部内容が重複する項目が含まれるが、そのまま記載した。
- 15 Family Educational Rights and Privacy Act.
- 16 学生等に関するデータを異なったコンピュータシステム間において移動を可能にするための技術。